

第6回 東京四極会 早川尚（大1）（2020.6.8）

拝啓 緑の美しい季節になりました。

「四極」ご送付ありがとうございます。

「創立100周年記念募金」、前に聞いていたのですが、送っていないと思います。些少乍ら贈らせて頂きます。

私は昭和28年卒の大学第1期生です（90歳）。

私共の年代は、小学校の1年の時支那事変が始まり、5年で第2次大戦、国民学校になり、中学2年の終りから3年生の夏、終戦まで、海軍の航空廠（軍用機の修理工場）へ勤労働員にかり出された最後の学年で、一番勉強していない学年と思います。旧制の高校（佐賀高校）は学制改革で、1年で終了となり、新制の第1期生として、家から通える大分大学へ入りました。

地元なので、大分中学時代の友人と多く逢え、新しい学校とは思えずすぐなじみました。

400米の公式トラックのあるグラウンドを陸上で走ったり、休講の時、芝の上でダベッタリした自由な友人との付き合いは楽しい思い出です。

4年の夏休みは、「試験の為の勉強」ではなく「本当に勉強した」実感を残し度、暑い昼は寝て、夜、必死に論文に向かいました。

ベームバウエルクの「積極的資本理論」を高崎ゼミの高崎先生に「梅田先生のアドバイス」ももらう様云われ、ご相談に上ると、ドイツ語からだ大変だろう、図書館に英訳した本があるから使ったら良い、良いテーマだからしっかりおやりなさい」とはげまして頂きました。

大学が上野丘から移転する時、卒業論文を返してほしい人には返すので取りに来るようにと話があり、友人に取りに行ってもらったものが、今、手許にあります。

「大分大学経済研究所」のラベルに分類 No1 というラベルが貼ってあり、400字詰原稿用紙150枚（240頁）の製本した「卒論」は宝物です。

総じて、経済学部で学んだ講義は殆ど会社勤めするようになり役に立った事を、今頃気付いています。

盛大な100周年行事を祈ります。

敬具